

# 家事分担に関する研究(1)

—ステレオタイプ認知と自分の態度—

黒川正流・坂田桐子

広島大学総合科学部人間行動研究講座  
(1988年10月31日受理)

How husbands and wives share things to do

— Stereotypes and practices on domestic affairs —

Masaru KUROKAWA and Kiriko SAKATA

## Abstract

This study revealed the prevailing stereotypes concerning the domestic affairs and also examined their relationships with actual practices. In the first survey, 381 unmarried college students classified 41 house duties to be taken care of by either husband or wife. As to the stereotypic assignment based on their own "social standards". 19 duties were classified as wives jobs, including "balancing the house budget books" and "deciding things to have at dinner". Nine duties were classified as husbands' jobs including "representing the family at ceremony" and "fixing broken electronic equipments". Male students indicated that they would like to share more domestic duties than socially expected when they got married, while female students indicated that they intended to abandon the distinction between husbands' job and wives' job when they got married.

In the second survey, 259 married men and women, ranging from at their 20s to 50s, answered to the identical questionnaire used in the first study. Married couple tended to regard more duties as wives' jobs than college students, and wives actually took care of more duties than those expected by college students when they get married. In those couples whose wives were employed and/or those got married over 31 years, husbands tended to share more domestic duties.

本研究は、夫と妻による家事の分担に関するステレオタイプを明らかにし、認知されたステレオタイプと現実の個人行動の関係をデモグラフィックな要因との関連で吟味するものである。

女性の社会進出の増加が言われるようになって久しい。しかもこの傾向は結婚・出産後も社会に出て仕事を続ける女性が増加しているという特徴を持っている。総理府が昭和47年と54年に女性を対象として行なった「婦人に関する世論調査」によると、「結婚するまでは職業を

持つ方がよい」という意見が18.6%から11.3%に減少し、かわりに「子供ができてもずっと職業を続ける方がよい」と思う者が11.5%から20.1%に増加している。また女性の就職先もかつてのように限られたものではなくなっているようである。大卒女性の職業別就職者の割合をみると、教師以外の専門的・技術的職業の割合は昭和50年で9.8%であったが、昭和59年には22.3%と大幅に伸びており（文部省「学校基本調査」昭和60年学校教育統計総覧）、大卒女性の職域は拡大しつつあるようである。このように、社会における女性の役割は近年拡大・多様化の傾向にあると考えられる。それでは、家庭における女性の役割はどうであろうか。

昭和59年に行なわれた「女性に関する世論調査」によると、「一般的に言って女性が職業を持つことは好ましいことだと思うか」という質問に対し、「思う」と答えた者66.2%、「どちらともいえない」20.8%、「思わない」11.8%と、肯定的な意見が6割以上を占めている。しかし、「女性が職業を持つことによって悪いと考えられる点は何か（複数回答）」という質問に対する回答を見ると、「家事が十分できない」63.1%、「育児や子供の教育が十分できない」61.7%、「家庭の潤いがなくなる」19.3%と、家事・育児の問題を挙げるものが非常に多い（内閣総理大臣官房広報室「女性に関する世論調査」, 1984年）。このような問題に対して、一方では「男性も家事・育児を分担すべきだ」という意見が、1973年から1983年にかけて女性では51%から68%に、男性では56%から67%に増加してきている（NHK世論調査部, 1985年）。かつてのような「男は仕事、女は家庭」式の伝統的性役割が崩れつつある以上、家庭における夫・妻の役割に変化が生じるのは当然のことであると考えられ、また少なくとも意識の上では確実に変化しているようである。そこで、この点に関する実態を明らかにしてみたい。

家事分担についての探索的研究として、まず家庭における夫婦の役割の一般的な社会的標準を調べるため、家庭における性役割ステレオタイプの認知を未婚の大学生と既婚者を対象に測定する。次に、大学生には将来自分が夫や妻の立場になったらどうするかという家庭における性役割観を、また既婚者には自分が実際どうしているかという夫婦の役割分担の実態を測定してステレオタイプの認知と対比検討する。また、個人の性役割観や性役割分担の状況は年齢や世代など様々な要因によって異なると思われるが、今回の研究では特に回答者の一般的な性役割態度（女性の権利や役割に対する態度）を測定し、家庭における性役割観や実態との関連を検討する。

一口に家庭の仕事といわれるものの中にも、実際には様々な性質のものが含まれると考えられる。慣用的な家事の分類は炊事・洗濯・掃除であるが、このようないわゆる一般的家事の他に、一ヶ月の生活費の額を決定したり、生命保険の加入を決めたりするような決定も家庭内でよく行なわれる仕事である。また、町内会に出席したり、冠婚葬祭の時に家族を代表するといった家庭の外との対応もその一つであろう。今日の家庭における性役割状況を把握するには、家事一般の領域だけでなく、決定や家庭外との対応の部分をも含めて全体的にとらえることが必要だと考えられる。そこで本研究では、このような3つの領域に含まれると考えられる様々な仕事を、ごく日常的なものから減多にすることのない非日常的なものまでなるべく細かく分類して41の事柄を取り上げ、その一つ一つについての回答を求めた。ただし、育児や子供に関する領域については子供の発達段階や性別などの条件によって異なると考えられ、分類が複雑であるため、今回の調査からは省いた。

## 【調査 I】

## 方 法

調査対象 一般教育の心理学受講中の大学生 381 名 (男子 242 名, 女子 139 名)。

質問紙 ①性役割ステレオタイプの認知測定: 家庭の仕事 41 項目のそれぞれについて, 「世間一般では夫・妻のどちらがやるべきだとされていると思うか」を質問し, 夫がすべきである (-3) - 妻がすべきである (+3) の 7 段階尺度で評定させた。家庭の仕事 41 項目は次の 3 領域から構成されている。a) 一般的家事雑用の領域。炊事をする, せんたくをする, 掃除機をかけるなど。b) 家庭内で行なわれる決定の領域。生命保険の加入を決める, どんな家を買う (借りる) か決める, など。c) 家庭外との対応の領域。町内会に出席する, 冠婚葬祭の時一家を代表する, など。②個人の家庭における性役割観の測定: 前述の 41 項目について, 「自分が夫や妻の立場になったらどうするか」を質問し, 夫がする (-3) - 妻がする (+3) の 7 段階尺度で評定させた。③一般的な性役割態度測定: Attitude Toward Women Scale (Spence et. al., 1978) から家事分担に対する態度を直接的に問うような内容の項目を避け, 下記に示す 6 項目を抜粋して用いた。この尺度は女性の役割や権利に対する考え方を表わした記述に対して, 全く賛成 - 全く反対の 4 段階尺度で回答させるものであり, 高得点であるほど男女の平等感が強い対等的態度, 低得点ほど伝統的な性役割を重んじる伝統的態度であると判断される。前者の態度をここでは便宜的にフェミニスト的態度と称する。使用した項目は次の通りである。1. 女性が下品な言葉を使った場合, 男性がそれを使うよりも聞き苦しい。2. 結婚の申し込みは女性からも自由にしてよいはずだ。3. 女性は女性としての権利を主張するより, 良い妻, 良い母になることを重んじるべきである。4. 女性がトラックを運転したり, 男性が編物をしたりするのは, どこかおかしい。5. どんなに世の中が変わっても, 妻は家事, 夫は外で働く方が自然である。6. 頭を使う仕事は, 女性より男性の方が適している。

## 結果と考察

①ステレオタイプ認知の傾向: 41 項目それぞれについて, 全回答者のステレオタイプ得点の平均と標準偏差を算出した。平均評定値が +0.5 以上の項目を妻の役割領域, -0.5 以下を夫の役割領域, その間を両者の対等あるいは共通の役割領域とする。項目は Table 1 に示す通りである。妻の役割領域は全部で 19 項目あり, そのうち 14 項目は炊事・洗濯などの日常的家事雑用から成っていた。その他, 決定領域の項目は, 「夕食の献立」「一ヶ月の生活費の額」「妻の小遣い金額」の 3 項目であり, 対応領域は「PTAに出席する」「近所の冠婚葬祭の手伝い」の 2 項目であった。このように, 妻の領域の中には日常的な仕事が多い。一方, 夫の役割領域は全部で 9 項目であり, そのうち決定領域は, 「家の購入」「車の購入」「中元・歳暮などつきあい範囲」の 3 項目であり, 対応領域は「税金の申告や役所の手続き」「冠婚葬祭の時家族を代表する」の 2 項目であった。その他 4 項目は「壊れた電気製品の修理」「きれた電球を取り替える」などのあまり日常的でない家事雑用であった。妻の領域と比較すると, 夫の領域は決定・対応領域の占める割合が大きく, その内容も, よくあることではないがいざという時の重要な事柄だと考えられる。このことから, 妻は家事, 夫は一家の大黒柱といったいわゆる伝統的な夫婦の役割がステレオタイプとして認知されているといえよう。

②ステレオタイプ認知の傾向と性役割観の比較: 性役割観については, 41 項目それぞれに

Table 1. ステレオタイプ認知と実際の行動の平均評定値 (大学生)

項 目	ステレオタイプ				実際の行動				実際の行動-ステレオタイプ				
	全体 (381)		男 (242)		女 (139)		男 (242)		女 (139)		平均		(SD)
4. 家計簿をつける	2.5	(.77)	2.3	(.99)	** 2.0	(1.00)	-1.1	(1.01)	** -.5	(1.00)			
12. 服の破れをつくろう	2.4	(.82)	2.3	(.91)	2.1	(1.06)	-1.1	(.85)	** -.3	(1.01)			
3. 妻の衣服の買い物	2.4	(.87)	2.2	(1.08)	2.2	(.86)	-2.2	(1.06)	** -.2	(.94)			
36. 夕食の献立を決める	2.3	(.88)	2.0	(1.05)	** 1.6	(1.09)	-2.2	(1.05)	** -.7	(1.20)			
8. 洗濯ものをたたむ	2.2	(.90)	2.0	(1.09)	** 1.8	(1.15)	-2.2	(1.05)	** -.5	(1.15)			
7. せんたくをする	2.2	(.89)	2.0	(1.09)	1.9	(1.11)	-1.1	(1.08)	** -.3	(1.15)			
9. 炊事をする	2.1	(.91)	2.0	(1.04)	** 1.7	(1.17)	-1.1	(1.08)	** -.5	(1.21)			
10. 食器を洗う	2.0	(.97)	1.8	(1.17)	** 1.3	(1.29)	-2.2	(1.07)	** -.6	(1.20)			
5. 掃除機をかける	1.9	(.97)	1.7	(1.14)	** 1.6	(1.22)	-1.1	(1.22)	** -.5	(1.33)			
役 1. 日常の食料品の買い物	1.9	(.89)	1.7	(1.09)	1.5	(1.07)	-2.2	(1.04)	** -.4	(1.14)			
11. お茶を入れる	1.8	(1.11)	1.4	(1.20)	1.4	(1.17)	-2.2	(1.20)	** -.6	(1.14)			
27. 学校行事やPTAに参加する	1.2	(1.10)	1.2	(1.19)	** .8	(.98)	-0.0	(1.16)	** -.5	(1.21)			
割 6. ゴミ置き場にゴミを出す	1.2	(1.22)	1.0	(1.41)	** .5	(1.44)	-1.3	(1.25)	** -.6	(1.34)			
28. 近所の冠婚葬祭の手伝いをする	1.1	(1.22)	.8	(1.35)	** 1.0	(1.02)	-1.0	(1.18)	** -.5	(1.09)			
13. 夫の靴をみがく	1.1	(1.49)	.5	(1.77)	.5	(1.82)	-4.4	(1.44)	** -.8	(1.73)			
19. ふろをわがす	.9	(1.19)	.7	(1.37)	.4	(1.15)	-2.2	(1.25)	** -.4	(1.16)			
40. 一ヶ月の生活費の額を決める	.8	(1.31)	.6	(1.39)	** .3	(.95)	-3.3	(1.39)	** -.5	(1.22)			
14. 布団のあげおろしをする	.7	(1.24)	.5	(1.42)	** .2	(1.27)	-2.2	(1.29)	** -.6	(1.18)			
35. 妻が借った小遣いの金額を決める	.6	(1.40)	.6	(1.47)	.6	(1.42)	-0.0	(1.34)	** -.0	(1.16)			
23. 訪問者に応対する	.5	(1.29)	.1	(1.50)	.3	(1.04)	-2.2	(1.30)	** -.5	(1.09)			
25. 妻の親との対応をする	.5	(1.17)	.3	(1.31)	.5	(.91)	-1.1	(1.21)	** -.2	(1.13)			
34. 夫が借った小遣いの金額を決める	.4	(1.45)	-.3	(1.61)	** .1	(1.12)	-1.7	(1.60)	** -.4	(1.16)			
26. 町内の会合に出る	.2	(1.50)	-.3	(1.53)	** .0	(1.16)	-1.1	(1.29)	** -.3	(1.35)			
20. 夜、家の戸締まりをする	.2	(1.23)	-.2	(1.34)	.0	(1.26)	-3.3	(1.11)	** -.3	(1.11)			
2. 夫の衣服の買い物	.1	(1.39)	-.9	(1.53)	** -.1	(1.39)	-1.7	(1.46)	** -.8	(1.45)			
33. 小さな大型家電製品を買い決める	.1	(1.17)	.0	(1.23)	** .2	(.91)	-1.1	(1.07)	** -.1	(.93)			
41. 親類への中元・歳暮の進物品や慶弔の金額を決める	.0	(1.31)	-.1	(1.21)	.0	(.82)	-0.0	(1.31)	** -.3	(1.08)			
24. 夫の親との対応をする	.0	(1.24)	-.5	(1.35)	** .0	(.87)	-3.3	(1.22)	** -.4	(.99)			
15. 新聞を新聞受けからとってくる	.0	(1.05)	-2.2	(1.35)	-.4	(1.08)	-2.2	(1.14)	** -.5	(1.24)			
38. 貯蓄の額と方法を決める	.0	(1.11)	-.2	(1.22)	.0	(.63)	-1.1	(1.11)	** -.0	(.90)			
37. テレビのチャンネルを決める	-.3	(.75)	-.3	(.79)	** -.1	(.38)	-0.0	(.77)	** .2	(.71)			
39. 家族の生命保険の加入を決める	-.4	(1.23)	-.3	(1.24)	.2	(.81)	.1	(1.17)	** .3	(.93)			
32. 小さな家を買うか決める	-.6	(1.07)	-.7	(1.12)	** -.3	(.85)	-1.1	(1.04)	** .3	(.95)			
22. 税金や申告や、役所の手続きなどをする	-.7	(1.44)	-1.0	(1.69)	** -.4	(1.21)	-0.0	(1.39)	** -.3	(1.26)			
30. 年毎や中元・歳暮などのつきあいの範囲を決める	-.8	(1.35)	-.6	(1.26)	** -.3	(.96)	.3	(1.40)	** .4	(1.17)			
21. 車の運転をする	-.9	(1.14)	-1.4	(1.31)	** -.7	(1.10)	-3.3	(1.16)	** .0	(1.26)			
18. された電球を取り替える	-1.1	(1.30)	-1.5	(1.41)	** -.7	(1.15)	-3.3	(1.11)	** .5	(1.24)			
31. 小さな車を買うか決める	-1.2	(1.16)	-1.3	(1.25)	** -.5	(.89)	-0.0	(1.18)	** .2	(1.01)			
17. 部屋の中の家具の位置を替える	-1.4	(1.26)	-1.6	(1.28)	** -1.2	(1.21)	-2.2	(.86)	** .1	(1.11)			
16. 壊れた電気製品の修理をする	-2.1	(.99)	-2.3	(1.00)	** -1.7	(1.15)	-1.1	(1.15)	** .2	(1.11)			
29. 冠婚葬祭の時、家族を代表する	-2.1	(1.12)	-1.8	(1.30)	-2.0	(1.10)	-3.3	(.99)	** .2	(.97)			

男女間の比較の結果 \*\* p < .01 \* p < .05 得点は夫がする (-3) から妻がする (+3) の7段階。

ついて男女別に平均と標準偏差を算出した (Table 1)。男子の性役割観は妻の役割領域の項目に対してはステレオタイプよりも共通的であるが、夫の領域項目や「夫のこづかいの決定」「夫の親との対応」などはステレオタイプよりも夫側にある。男子はステレオタイプの役割を受け入れており、しかも自分に関係したことは自分ですといった姿勢が伺える。しかし一方、女子の性役割観にはこのような傾向は見られず、ほぼ全ての項目に対してステレオタイプよりも共通的である。このことは男女の考え方の違いを示しているものと思われる。

③性役割観とステレオタイプ認知のずれ：性役割観とステレオタイプ認知の傾向をより正確に比較するため、41項目それぞれについて、各個人内で〔性役割態度評定値－ステレオタイプ認知評定値〕の値を求め、男女別に平均と標準偏差を算出した。差の絶対値の大きさは性役割観とステレオタイプ認知とのずれの大きさを示しており、さらに符号がプラスであれば性役割観のほうがステレオタイプ認知よりも妻側にあることを、またマイナスであれば性役割観の方がステレオタイプ認知よりも夫側にあることを表わしている。Table 1を見ると、全体的に男子よりも女子の方が差の絶対値が大きい。しかもその大部分は妻の役割領域に含まれる項目であり、符号はマイナスである。夫の役割領域に含まれる3項目は符号がプラスである。つまり、男子に比べて女子の性役割観はステレオタイプから離れており、しかも夫・妻両方の役割領域において共通的な性役割観を持っていることになる。しかし一方、女子より男子の方が差の絶対値の大きい項目を見ると、その全てが夫の役割領域の項目であり、しかも符号はマイナスである。つまり男子は女子と違って、ステレオタイプ的に自分の性役割とされた仕事を受け入れているようである。

④一般的性役割態度との関連：まず、各個人について性役割態度得点を算出したところ、得点領域0～18点のうち、男子は $\bar{x}=8.60$ ,  $SD=3.05$ , 女子は $\bar{x}=11.15$ ,  $SD=2.90$ であった。平均に差があるため、男子・女子各分布の上位25%をフェミニスト型、下位25%を伝統型、その中間を平均型として3群に分類した。男子は11点以上がフェミニスト型、6点以下が伝統型であり、女子は14点以上がフェミニスト型、9点以下が伝統型であった。まず、群別に41項目それぞれについて家庭における性役割観の平均評定値を算出し、一元配置の分散分析を行なったところ、妻の役割領域の13項目については、男女ともフェミニスト型になるほど共通的な評定をしていた。性役割態度のタイプに主効果のみられる項目をTable 2に示す。また、夫の役割領域の方では「車の運転」や「電気製品の修理」など4項目について、フェミニスト型になるほど共通的な評定をしていた。男子のみあるいは女子のみに見られる特徴的な項目は少なく、男女ともフェミニスト型は夫・妻どちらの領域においても共通的な性役割観を持っていると思われる。このことは、性役割態度別に見た〔性役割観－ステレオタイプ認知〕得点からも伺える。

## 【調査 II】

### 方 法

調査方法 広島・岡山・鹿児島在住の既婚者518名(男女各259名ずつ)。このうち夫婦ペアで回答しているものは476名(238組)である。この場合は夫・妻別々に回答させた。回答者の年齢構成は20才代8%, 30才代27%, 40才代44%, 50才代21%。共働きの夫婦は125組であった。

Table 2. 一般的性役割態度別に見た家事分担（性役割観）の平均値（大学生）

項 目	男			女		
	伝 統 型 ( 59 )	平 均 型 ( 119 )	フェミニスト 型 ( 57 )	伝 統 型 ( 39 )	平 均 型 ( 68 )	フェミニスト 型 ( 30 )
妻の役割						
4. 家計簿をつける	2.7	2.4	1.6	2.7	1.9	1.4
12. 服の破れをつくろう	2.7	2.3	1.7	2.7	2.0	1.5
3. 夕食の献立を決める	2.3	2.1	1.5	2.4	1.5	.8
8. 洗濯ものをたたむ	2.7	2.0	1.4	2.4	1.8	.9
7. せんたくをする	2.6	2.0	1.4	2.6	1.8	1.3
9. 炊事をする	2.4	2.0	1.3	2.4	1.5	.9
10. 食器を洗う	2.4	1.8	1.0	2.1	1.3	.4
5. 掃除機をかける	2.4	1.7	1.0	2.4	1.5	.7
1. 日常の食料品の買い物	2.3	1.7	.9	2.2	1.4	.8
11. お茶を入れる	2.1	1.4	.8	2.1	1.4	.5
27. 学校行事やPTAに参加	1.7	1.1	.7	1.1	.9	.3
28. 近所の冠婚葬祭の手伝い	1.2	.6	.5	1.4	.9	.4
13. 夫の靴をみがく	1.2	.7	-.5	1.7	.3	-.7
23. 訪問者に対応する				.9	.1	.0
共通						
2. 夫の衣服の買い物				.6	-.2	-.9
37. テレビのチャンネルを決定	-.5	-.3	-.1			
夫の領域						
21. 車の運転をする	-1.7	-1.6	-.8	-.9	-.7	-.3
18. きれいな電球を取り変える	-1.9	-1.5	-1.2	-1.1	-.6	-.3
31. どんな車を買うか決める	-1.8	-1.3	-.6	-.8	-.4	-.2
16. 壊れた電気製品の修理	-2.6	-2.4	-1.8	-2.2	-1.5	-1.3
29. 冠婚葬祭の時家族を代表	-2.1	-1.8	-1.4			

得点は夫がする（-3）から妻がする（+3）までの7段階。  
いずれの項目についてもタイプの主効果（ $p < .05$ ）あり。

質問紙 ①性役割ステレオタイプの認知測定、及び③一般的な性役割態度測定は、調査Iと同じ質問を用いた。②回答者の実態測定は、41項目それぞれについて、「世間一般の常識とは別に、実際の自分の場合はどうか」を質問し、7段階尺度で評定させた。④フェイスシート：年齢、現在のパートナーとの結婚生活歴、子供の有無を質問した。また、共働きか否かが家事分担に影響すると考え、自分及びパートナーの就労形態とそれによる収入の割合もあわせて質問した。

### 結果と考察

①性役割ステレオタイプの認知測定：ステレオタイプ認知の傾向については、学生の認知したステレオタイプ傾向に比べて全体的に評定値が妻側に寄っていた。これが結婚生活の経験によるものか、年齢によるものかは判断し難いが、既婚者は家庭における性役割ステレオタイプを学生よりも妻寄りに認知しているようである。しかし、妻の役割領域・夫の役割領域は基本的には学生の認知傾向と変わりはなかった。結果を Table 3 に示す。

②回答者の実態測定：まずほとんどすべての項目について、ステレオタイプ認知よりも妻の

Table 3. ステレオタイプと実際の行動の平均評定値 (既婚者)

項目 (N)	ステレオタイプ		実際の行動		実際の行動-ステレオタイプ	
	平均	(S.D.)	平均	(S.D.)	平均	(S.D.)
12. 服の破れを直す	2.6	(.72)	2.7	(.79)	.1	(.84)
3. 夫の衣服の買い物	2.5	(.88)	2.6	(.86)	.1	(1.01)
4. 洗濯物をつける	2.4	(.89)	2.6	(.80)	.2	(.90)
8. 洗濯ものをたたむ	2.3	(.96)	2.4	(1.02)	.1	(1.09)
7. 洗濯をする	2.2	(.98)	2.5	(.92)	.3	(1.03)
36. 夕飯の献立を決める	2.2	(1.03)	2.4	(1.03)	.2	(1.09)
9. 炊事を決める	2.2	(.97)	2.6	(.82)	.4	(.93)
10. 炊事を決める	2.1	(1.05)	2.4	(1.00)	.3	(1.03)
1. 日常の食料品の買い物	2.0	(.95)	2.3	(.91)	.3	(.98)
11. お茶を入れる	1.9	(1.15)	2.2	(1.08)	.3	(1.16)
5. 掃除機をかける	1.8	(1.17)	2.0	(1.27)	.2	(1.28)
6.ゴミ置き場にゴミを出す	1.3	(1.31)	1.6	(1.60)	.3	(1.48)
13. 夫の靴をみがく	1.2	(1.54)	.9	(2.07)	-.3	(1.85)
14. 布団のあげおろしをする	1.1	(1.36)	1.3	(1.63)	.2	(1.58)
27. 学校行事やPTAに出席する	1.0	(1.19)	1.7	(1.36)	.7	(1.53)
19. ふろをわす	1.0	(1.33)	1.0	(1.62)	.0	(1.83)
40. 生豆の茹でる	.9	(1.53)	1.2	(1.78)	.3	(1.63)
35. 妻がゆい小遣いの金額を決める	.8	(1.43)	1.4	(1.60)	.6	(1.52)
28. 近所の冠婚葬祭を手伝う	.8	(1.40)	1.1	(1.57)	.3	(1.32)
23. 訪問者に対応する	.7	(1.37)	.9	(1.58)	.2	(1.45)
20. 夜、家の戸締りをする	.6	(1.45)	.7	(1.77)	.1	(1.68)
24. 夫の靴との対応をする	.5	(1.35)	.4	(1.60)	-.1	(1.55)
25. 妻の靴との対応をする	.4	(1.29)	.8	(1.53)	.4	(1.29)
2. 夫の衣服の買い物	.4	(1.43)	.7	(1.84)	.3	(1.77)
15. 新聞を新聞受けからとってくる	.3	(1.32)	.2	(1.81)	-.1	(1.84)
38. 貯蓄の額と方法を決める	.2	(1.39)	.5	(1.82)	.3	(1.59)
41. 親類への中元・歳暮の進物品や慶弔の金額を決める	.2	(1.45)	.4	(1.60)	.2	(1.60)
33. 大型家電製品を決める	.1	(1.40)	.2	(1.59)	.1	(1.33)
26. 町内の会合に出席する	-.1	(1.42)	.7	(1.92)	.8	(1.67)
39. 家族の生命保険の加入を決める	-.2	(1.41)	.2	(1.72)	.4	(1.41)
34. 夫の小遣いの金額を決める	-.2	(1.53)	-.4	(1.94)	-.2	(1.65)
37. テレビのチャンネルを決める	-.4	(.97)	-.5	(1.32)	-.1	(1.34)
17. 部屋の家具の位置を変える	-.4	(1.45)	.0	(1.92)	.4	(1.79)
30. 年始や中元・歳暮などのつきあいの範囲を決める	-.5	(1.47)	.0	(1.62)	.5	(1.62)
32. どんな家を買うか決める	-.8	(1.30)	-.9	(1.44)	.1	(1.39)
18. された雑球を取り替える	-.9	(1.49)	-.6	(2.16)	.3	(1.96)
22. 役所の手続きなどを決める	-1.0	(1.52)	-.6	(2.16)	.4	(1.63)
21. 車の運転をする	-1.1	(1.33)	-.9	(1.48)	.2	(1.54)
31. 大きな車を買うか決める	-1.4	(1.22)	-.4	(1.33)	.1	(1.32)
16. 増えた電気製品の修理をする	-1.8	(1.20)	-.2	(1.46)	.1	(1.39)
29. 冠婚葬祭の時、家族を代表する	-1.8	(1.39)	-.5	(1.73)	.1	(1.82)

男女間のt検定の結果 \*\* p<.01 \* p<.05 得点は夫がする(-3)から妻がする(+3)の7段階。

側に寄っていた。すなわち、実際には家庭の仕事を妻が行なっていることになる。しかもこの傾向は女性の方に顕著に見られる (Table 3)。

③実態とステレオタイプ認知のずれ：学生の場合と同様に、各個人について〔実態－ステレオタイプ認知〕の値を算出した (Table 3)。全体的に女性の方が実態とステレオタイプ認知のずれが大きく、しかもそのほとんどは符号がプラスであった。またそのほとんどは妻の役割領域の項目であった。夫の領域である「車の運転」「夫の小遣い決定」「テレビのチャンネル決定」の3項目については符号がマイナスであり、実際には夫の方がやっているようである。一方、男性の方が女性よりも自分の行動評定値とステレオタイプ値の差の大きい項目は「きれた電球を取り替える」の1項目のみであり、符号はマイナスであった。一般的に女性の方が社会的標準と自分の実態との差を大きく認知しているといえよう。

④一般的性役割態度との関連：性役割態度得点は、男性  $\bar{x}=7.84$ ,  $SD=2.97$ , 女性  $\bar{x}=8.89$ ,  $SD=3.32$  であった。男性は10点以上がフェミニスト型、6点以下が伝統型であり、女性は11点以上がフェミニスト型、6点以下が伝統型であった。まず群別に41項目それぞれについて回答者の実態の平均評定値を算出し、一元配置の分散分析を行なった。群の主効果がみられた項目をTable 4に示す。男性については、妻の役割領域である一般的な家事8項目について、態度がフェミニスト的であるほど共通的な評定をしており、学生のフェミニスト的態度の性役割観と対応した結果になっている。しかし、女性のフェミニスト型についてこのような傾向は4項目しか見られず、逆に夫の役割領域の項目については5項目を共通的に評定していた。このことから、フェミニスト型の女性でも実際には伝統型の女性と同じように、一般的な家事を行なっている傾向が伺える。学生の性役割観から考えると、フェミニスト型の女性は伝

Table 4. 一般的性役割態度別に見た家事分担 (実際の行動) の平均値 (既婚者)

項 目	男			女		
	伝 統 型	平 均 型	フェミニスト型	伝 統 型	平 均 型	フェミニスト型
( N )	( 79 )	( 103 )	( 64 )	( 64 )	( 129 )	( 53 )
妻の役割領域						
12. 服の破れをつくろう	2.8	2.7	2.4	2.9	2.8	2.5
3. 妻の衣服の買い物				2.9	2.6	2.5
8. 洗濯ものをたたむ	2.6	2.3	2.2	2.8	2.7	2.5
9. 炊事をする	2.8	2.6	2.3			
10. 食器を洗う	2.6	2.4	2.1			
1. 日常の食料品の買い物	2.5	2.3	2.1			
11. お茶を入れる	2.5	2.1	1.9			
27. 学校行事やPTAに参加	2.0	1.6	1.5			
13. 夫の靴をみがく	1.8	1.5	0.9	1.8	1.5	0.9
夫の役割領域						
39. 家族の生命保険加入の決定				- .6	- .2	.2
32. どんな家を買うか決める				-1.4	-1.2	-0.4
22. 税金の申告や役所の手続き				-1.0	-0.3	0.2
21. 車の運転をする				-2.3	-1.8	-1.5
18. きれた電球を取り替える	-1.5	-1.7	-2.0			
31. どんな車を買うか決める				-2.4	-1.7	-1.2

得点は夫がする (-3) から妻がする (+3) までの7段階。いずれの項目についてもタイプの主効果 (p < .05) あり。



統型の女性に比べて、夫の領域の仕事も妻の領域の仕事も、夫と分担し、同等に行なっているはずである。夫の領域の仕事は確かに伝統型の女性よりも多行なっているようであるが、それに加えて妻の領域の仕事も自分が行なっていることになる。逆に、男性のフェミニストは伝統型の男性よりも妻の領域の仕事も多く行なっている。男性のフェミニスト的態度は行動に現われやすいが、女性のフェミニスト的態度は必ずしも行動には反映されないということであろうか。あるいは妻が家事一般を行なうかどうかは、夫の性役割態度に左右されるところが大きいのではないかと考えられる。

一般的な性役割態度と〔実態－ステレオタイプ認知〕の値についても同様の分析を行なったが、有意な結果は得られなかった。

⑤妻の仕事・夫の仕事の実行度を説明する変数：家庭の仕事の実行度と関連する要因はどのようなものであろうか。Table 3に挙げた項目のうち、ステレオタイプ評定値が+1.0以上の項目から分散の小さい8項目を抜粋し、これについて各個人ごとに実態評定値を合計して妻領域の仕事の実行度を表わす得点とした。またステレオタイプ評定値が-1.0以下の項目のうち分散の小さい4項目についても同様の値を算出し、夫領域の実行度を表わす得点とした。これらの得点は、高いほど妻が実行しており、低いほど夫が実行していると考えられる。この2つの得点を外的基準とし、一般的性役割態度、年齢、結婚生活歴、子供の有無、妻の就労状況を説明変数として、男女別に林の数量化理論I類を行なった。結果をTable 5a～Table 5dに示す。女性の妻領域実行度及び男性の妻領域・夫領域実行度においては、妻の就労状況が第1位で効いており、結婚生活年数が第2位である。妻の就労状況は女性の夫領域実行度でも第2位であった。このことから、全体を通して実行度に最も強く関連しているのは妻の就労状況であると言えよう。妻が定職についている場合、妻領域・夫領域とも夫がより実行するようである。また結婚生活年数は、女性の妻領域実行度及び男性の妻領域・夫領域実行度においては大きく関連している。女性の夫領域実行度の第1位は性役割態度であり、これは男性の妻領域実行度においても第3位である。異性の領域である仕事の実行度には性役割態度も関係してくるようである。

⑥妻の就労状況との関連：⑤から、家庭における仕事の実行度には妻の就労状況が重要な要因であると考えられたため、これについてさらに詳しく分析を進める。妻の就労状況別の実態評定値の平均を算出し、一元配置の分散分析を行なった。群の主効果が見られたのはほぼすべて妻領域の項目であり、女性よりも男性の方が全体的に項目数が多い。群の主効果が見られた項目をTable 6に示す。アルバイト・パートや家事専業の場合よりも、妻が定職を持っている場合により夫がこれらの仕事をする程度が大である。男女とも共通に見られる項目は、掃除、洗濯、炊事、食料品の買い物など妻領域の一般的家事である。さらに、男性のみにみられる項目には、「PTAに出席する」「中元・歳暮の進物品や慶弔の金額を決める」など、対応・決定領域のものも含まれていた。一方、女性に見られる項目には対応・決定領域は含まれていない。妻が定職につくことによって、男性はより多く広範囲に家庭の仕事を行なう傾向にあるようである。

### 全体的考察

ステレオタイプ認知の傾向は学生にも既婚者にも大きな差はなく、いわゆる伝統的な夫婦の役割をステレオタイプとして認知していた。社会的標準の認知という点では、まだ伝統的性役割観が根強いようである。また、既婚者の実態からは家庭の仕事の大部分について、社会的基

Table 5a. 妻領域の実行度 (女性)

重相関係数 .45

説明変数		順位	偏相関係数	スコア	妻がしない ←	→ 妻がする
					-4.00	-2.00 0 1.00
妻の就労状況	1. 定職がある	1	.290	-1.39		
	2. アルバイトパート			.73		
	3. 家事専業			.84		
	4. その他			1.30		
結婚生活年数	1. 1~10年	2	.275	-1.56		
	2. 11~20年			.86		
	3. 21~30年			.99		
	4. 31年以上			-4.13		
学齢前の子ども	1. いる	3	.154	1.29		
	2. いない			-.31		
年齢	1. 20~29才	4	.140	.74		
	2. 30~39才			.07		
	3. 40~49才			-.55		
	4. 50才以上			1.07		
小学生の子ども	1. いる	5	.094	-.54		
	2. いない			.23		
一般的役割態度	1. 伝統型	6	.078	-.01		
	2. 平均型			.22		
	3. フェミニスト型			-.48		
中・高校生以上の子ども	1. いる	7	.052	.21		
	2. いない			-.33		

Table 5b. 夫領域の実行度 (女性)

重相関係数 .23

説明変数		順位	偏相関係数	スコア	妻がしない ←	→ 妻がする
					-2.00	0 2.00
一般的役割態度	1. 伝統型	1	.166	-1.16		
	2. 平均型			.17		
	3. フェミニスト型			1.01		
妻の就労状況	1. 定職がある	2	.154	-.84		
	2. アルバイトパート			.40		
	3. 家事専業			.40		
	4. その他			1.78		
年齢	1. 20~29才	3	.151	-2.01		
	2. 30~39才			-.78		
	3. 40~49才			.96		
	4. 50才以上			.11		
学齢前の子ども	1. いる	4	.112	-1.25		
	2. いない			.30		
結婚生活年数	1. 1~10年	5	.101	1.44		
	2. 11~20年			-.45		
	3. 21~30年			-.61		
	4. 31年以上			-.02		
小学生の子ども	1. いる	6	.015	.11		
	2. いない			-.05		
中・高校生以上の子ども	1. いる	7	.006	-.03		
	2. いない			.06		

Table 5c. 妻領域の実行度 (男性)

重相関係数 .38

説明変数		順位	偏相関係数	スコア	夫がする← -2.00	0	→夫がしない 2.00
妻の就労状況	1. 定職がある	1	.290	-1.62			
	2. 7時間パート			.80			
	3. 家事専業			.66			
	4. その他			2.85			
結婚生活年数	1. 1~10年	2	.164	-.62			
	2. 11~20年			.06			
	3. 21~30年			.87			
	4. 31年以上			-2.31			
一般的役割態度	1. 伝統型	3	.163	.95			
	2. 平均型			-.61			
	3. フェミニスト型			-.23			
学齢前の子ども	1. いる	4	.097	.96			
	2. いない			-.23			
小学生の子ども	1. いる	5	.038	.26			
	2. いない			-.11			
中・高校生以上の子ども	1. いる	6	.023	.11			
	2. いない			-.15			
年齢	1. 20~29才	7	.006	-.01			
	2. 30~39才			-.03			
	3. 40~49才			-.00			
	4. 50才以上			.05			

Table 5d. 夫領域の実行度 (男性)

重相関係数 .34

説明変数		順位	偏相関係数	スコア	夫がする← -1.00	0	→夫がしない 2.00
妻の就労状況	1. 定職がある	1	.212	.83			
	2. 7時間パート			.50			
	3. 家事専業			.13			
	4. その他			3.10			
結婚生活年数	1. 1~10年	2	.169	1.30			
	2. 11~20年			-.15			
	3. 21~30年			-.43			
	4. 31年以上			-1.82			
中・高校生以上の子ども	1. いる	3	.168	.66			
	2. いない			-.95			
学齢前の子ども	1. いる	4	.140	-1.34			
	2. いない			.32			
小学生の子ども	1. いる	5	.071	.46			
	2. いない			-.20			
一般的役割態度	1. 伝統型	6	.049	.11			
	2. 平均型			-.22			
	3. フェミニスト型			.21			
年齢	1. 20~29才	7	.046	-.50			
	2. 30~39才			.27			
	3. 40~49才			-.01			
	4. 50才以上			-.17			

Table 6. 妻の就業状況別 実際の行動の平均値 (既婚者)

項	目	夫の実行度			妻の実行度			
		定職 ( 87 )	アルバイト パート ( 51 )	家事 専業 ( 104 )	定職 ( 94 )	アルバイト パート ( 52 )	家事 専業 ( 93 )	
妻 の 役 割 領 域	7. せんとくをする	2.18	2.67	2.71	2.45	2.96	2.85	
	9. 炊事をする	2.26	2.64	2.76	2.50	2.83	2.78	
	10. 食器を洗う	2.10	2.57	2.61	2.39	2.84	2.83	
	5. 掃除機をかける	1.73	1.76	2.26				
	1. 日常の食料品の買い物	2.08	2.44	2.45	2.19	2.54	2.68	
	27. 学校行事やPTAに参加	1.36	1.96	1.74				
	6. ゴミ置き場にゴミを出す				1.46	2.21	2.11	
	28. 近所の冠婚葬祭の手伝い	.74	1.45	1.28				
	13. 夫の靴をみがく				1.03	1.61	1.82	
	19. ふろをわかす	.56	.98	1.31	.81	1.44	2.01	
	14. 布団のあげおろしをする	.71	1.37	1.70	.99	1.46	1.83	
	共 通 領 域	23. 訪問者に対応する	.52	1.41	.87			
		41. 中元・歳暮の進物品や慶 弔の金額を決める	.05	.96	.44			
		15. 新聞を新聞受けからとる	-.25	.33	.50	-.73	.25	.92

得点は夫がする (-3) から妻がする (+3) までの7段階。  
いずれの項目についてもタイプの主効果 (p<.05) あり。

準よりも実際には妻が行なっているという傾向が見られた。学生の性役割観をみると、全体的にステレオタイプ認知よりも共通的になっているので、なにかも妻が行なうという傾向も将来変化していく可能性がある。しかし、学生の性役割観を男女で比較してみると、必ずしも一致した傾向を示してはいない。女性の場合は夫の役割も妻の役割も夫婦平等にする、あるいはどちらがやってもよいと考えているのに対し、男性は妻の役割は夫婦平等に、だが夫の役割は夫(自分)がやると考えていた。しかも妻の役割についての性役割観を男性と女性で比較してみると、男性の方が女性よりも妻寄りになっている項目がかなり見られた。このことから考えると、女性は家庭におけるどんな仕事についても、誰がやるべきということなく夫婦対等に行なおうとする、仕事分担の対等性あるいは非区分を志向する姿勢が伺えるが、男性は夫の役割を自分で行ない、かつ自分に関係したこと(夫の小遣い金額を決めたり、夫の親と対応することなど)は自分ですするという、いわば明確な家事分担区分を志向しているのではないかと考えられる。ただし男性でもフェミニスト的な性役割態度を持っている者は、女性と同様に家庭の仕事に対等に行なおうとする傾向があった。

既婚者を対象とした調査からは、実際には家事全般を妻がおこなっている傾向が伺えた。しかも、既婚者の場合はフェミニスト型の女性でも一般的家事を自分でしており、学生のフェミニスト型女性の志向とは大きく異なっている。加えて、女性の方が男性よりも社会的標準と実態のずれを大きく認知している。女性の活躍領域が拡大しつつあるにもかかわらず、家事分担は依然として伝統的な形で行なわれていると言えよう。しかし数量化理論Ⅰ類を用いた分析結果にも見られるように、妻が定職を持っている夫婦では夫も一般的家事雑用を行なう傾向がある。定職を持つ女性の増加に伴って、家庭内の伝統的役割分担も今後変化していくであろう。

今回の研究は探索的研究として、ステレオタイプ認知と個人の性役割観、一般的性役割態度の関係に焦点を当てた。今後はさらに個々の仕事の重用度の評定や、家庭内の仕事と家庭外の仕事の重用度の比較などを行なう必要があると考えられる。また本研究では省かれたが、既婚者の家庭における性役割観と実態の比較も必要であろう。

### 引用文献

- 東 清和・小倉千加子 1984 性役割の心理. 大日本図書  
石田英夫(編) 1986 女性の時代. 弘文堂  
NHK放送世論調査所(編) 1979 日本人の職業観. 日本放送出版協会  
坂田桐子・黒川正流 1988 課題の性役割ステレオタイプの研究(Ⅰ) 日本心理学会第52回  
大会発表論文集  
Spence, J.T. & Helmreich, R. 1972 "The Attitudes Toward Women Scale: An objective instrument to measure attitudes toward the rights and roles of women in contemporary society"  
*Journal Supplement Abstract Service Catalog of Selected Documents in Psychology.* 2, 66-67.  
内閣総理大臣官房広報室(編) 昭和62年版 世論調査年鑑. -全国世論調査の現況-  
長田雅喜(編) 1987 家族関係の社会心理学. 福村出版